

令和元年度 部局長マネジメント方針（素案）

よしむら やすあき
上下水道局下水道部長 吉村 靖明



仕事に対する基本姿勢

本市の公共下水道は、市民サービスを担う企業（地方公営企業）として、「経済性の発揮」と「公共の福祉の増進」を運営原則に事業の推進を図っています。平成20年4月より企業会計方式の活用により財務情報の透明化に努め、さらに平成25年4月より下水道事業の経営を市長から任された事業管理者のもと、経営マインドの醸成を進めてまいりました。現在、人口減少社会に入り、地方財政の状況が厳しさを増す一方、施設の老朽化に伴う大量更新時代を迎えようとしている経営環境を踏まえ、公営企業として経営基盤の強化と財政マネジメントの向上に取り組んでまいります。

また、市民の安全・安心な生活を守るため、既存の施設の最適な維持管理を行っていくとともに、集中豪雨や地震による被害の軽減に向けた対策を、引続き推進してまいります。

平成30年度の振り返り

平成30年7月4日から7日にかけて、本市において連続雨量 250 mmを記録し、大規模な水害の発生が懸念されました。これまでの治水対策が功を奏し、大きな被害を免れることができましたが、治水対策の重要性、緊急性を改めて実感したところです。

平成3年度より実施している増補管事業は、平成30年度末において、計画に対しての進捗率が91%に達しました。また、市政だよりやケーブルテレビを活用し、これまでの治水対策の効果を、7月の豪雨を題材として市内の治水整備の紹介とあわせて解説するなど、ハードおよびソフトの両面から浸水対策に取り組みました。

今後日本社会における人口減少が予測され、下水道使用料収入の低下が見込まれます。厳しい経済環境の中、安定的に下水道事業を継続していくため、「経営戦略」（中長期的基本計画）の策定を進めております。平成30年度は、膨大な施設の維持および改築の需要を予測し管理を最適化するため、平成28年度より検討を進めてきたストックマネジメント計画を策定しました。計画策定時に試算した中長期的な投資の見通しは、経営戦略の策定に繋げてまいります。

ラグビーワールドカップ2019への取り組みとして進めてきた、花園ラグビー場周辺の

アクセス道路の歩道にあるマンホール蓋の再整備が、平成30年度に完了しました。165箇所のラグビーマンホール蓋が、ワールドカップ仕様にリニューアルされ、ワールドカップを盛り上げていきます。

令和元年度に取り組む重点課題

1 災害リスクの軽減に取り組む

平成30年は、6月に発生した大阪北部地震をはじめ、各地で時間雨量100mmを超える集中豪雨や、度重なる台風の襲来など、各地で自然災害が多く発生しました。

本市は、市域の大部分が降った雨が自然に川へ流れ込まない地形条件であり、都市化による流出量増加や近年の集中豪雨発生の増加によって、浸水リスクが増大しています。また、高度経済成長期の集中投資により整備されてきた施設の老朽化が進み、損壊による機能停止での衛生面・防災面のリスクや道路陥没等二次災害のリスクの増大が危惧されます。さらに、日本は地震大国と呼ばれるほど地震が発生しやすい場所であることから、地震災害のリスクも常に抱えています。市民の安全・安心な生活のために、これらのリスクを軽減していかなければなりません。

下水道部ではリスク軽減のため、既設の下水管の排水能力を増強する増補管事業や、老朽化した施設の長寿命化や耐震化といった改築事業を進めるなど、災害リスクの軽減に取り組んでいます。市民の安全・安心な生活のために、これら事業を着実に進めるよう取り組みます。

2 経営戦略の策定に取り組む

近年、少子化による人口減少に伴い使用料収入は減少傾向にあります。市内に整備された約1,100kmに及ぶ管渠の維持管理にかかる費用や、老朽化した施設の更新や浸水対策といったリスク軽減にかかる費用は需要を増していくため、下水道事業の経営環境は今後ますます厳しさを増していく見込みです。

下水道は市民生活に欠かせないライフラインであり、安定した下水道サービスを継続的に提供していかなくてはなりません。膨大な管きよの状況を客観的に把握・評価し、中長期的な施設の状況予測をしながら計画的な管理を行うストックマネジメントに取り組むとともに、厳しい経済環境の変化を見据え、安定的に下水道事業を継続していくため、中長期的な経営の基本計画である経営戦略の策定に取り組みます。